

広島県教育賞奨励賞受賞の状況（過去5年間）

個人（学校教育）

年度	氏 名	所属及び職名	功 績 等
2024 令和 6	木 下 恵 介	福山市立新涯小学校 教諭	<p>単元構想シートを用いた授業で児童が自分なりの言葉で考えを表現する機会を増やし、ICTを活用して授業や教材研究を共有する環境を整備した。令和3年度には大学院派遣研修を受講し、「学習者の自己変容を促す文学の読み」をテーマに国語科文学の研究・実践を行った。</p> <p>これらの成果や課題を同校や全国小学校国語教育研究大会で公開し、市内外の国語科教育の推進に寄与した。</p>
	味 呑 耕 平	福山市立新市中央中学校 教諭	<p>「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、キャリア教育推進リーダーとして、校区のキャリア教育の改善と発展に努めた。</p> <p>学校行事や授業で生徒が自己の成長を振り返ることができるよう、キャリア形成に関わる各記録を統一化するため、キャリア・パスポートを作成し、その活用について、校内や校区の研修等で助言を行った。キャリア・パスポートを活用することにより、生徒・教員・保護者が一緒に生徒の成長や変化を捉え、今後の展望について考えることができるようになった。</p>
2023 令和 5	橋 本 嘉 文	福山市立千田小学校 教諭	<p>千田小学校では、令和3年度に教科担任制の導入を発案し、教材研究の深まりなどの成果や時間割調整についての課題を整理し、次年度から本格的に実施するための準備を進めた。</p> <p>個人の実践を記した「セルフマネジメントシート」を作成し、定期的に学年会で交流している。目標に対する自らの実践を日的に振り返り、日々の実践に生かす取組を進めることで、「失敗を恐れずに挑戦することができている」教職員が増えた。</p>
	伊 藤 直 也	福山市立誠之中学校 教諭	<p>誠之中学校では、登校しづらい生徒が自分のペースで学ぶことができる「きらりルーム」の担任として、生徒、保護者との面談等を通して、一人一人の状況と、その状況に至っている要因をアセスメントし、個に応じた支援を行った。また、スクールカウンセラー等と連携し、不登校生徒支援、教育相談に関する研修を実施し、教職員の指導力の向上を図った。令和4年度からは、広島県「不登校 SSR 推進校」として取組をさらに進め、取組の成果を市内外へ発信した。</p>

2022 令和4	溝部 良子	福山市立東中学校 教諭	<p>ラウンドシステム先行実施校の担当教員として、授業の研究・実践に取り組んだ。子どもたちが生き生きと考え、関わり合う授業を目指し、一人一人の学習状況を丁寧に見取ること、機を逃さず個への支援や評価を行うことを意識した授業づくりを進めた。</p> <p>先行実施で得た研究成果を、市内一斉研修で他校の英語担当教員に伝え、市全体の英語科教育推進を牽引した。</p>
2021 令和3	志田原 聡美	福山市立久松台小学校 教諭	<p>学年を超えた内容に触れるカリキュラムの作成や、発問、切り返し、視点を変える一言といった教師のファシリテーションスキルの向上などについて教職員間で協議しながら、研究を進めた。</p> <p>また、子どもたち1人1人の学びの様子や変化を丁寧に見取るために、ポートフォリオを活用した記録・ファイリングなど、評価の見直しを進めた。</p>
	世良 幸子	福山市立新市中央中学校 教諭	<p>令和元年度、民間企業と福山市教育委員会が共同で実施した教職員研修「21世紀型ティーチャーズプログラム」を受講し、教育の課題や未来、学びのメカニズムについて考え、他の受講者と学ぶことや教えることの本質的な意味を協議した。</p> <p>令和3年度は、福山100NEN教育推進協議会数学部会の北東ブロックリーダーを務め、自身の実践を市内に発信した。</p>
2020 令和2	山田 賀子	福山市立南小学校 教諭	<p>教務主任として「単元の学びの本質は何か」を問うことで「子ども主体の学び」を深める研究を中心となって推進した。特に学びの本質に向かうために、単元の導入を大事にした授業を実践することで、児童が単元で学ぶ内容や疑問点等を交流して明らかにするとともに、その後の学びにおいても児童の主体的に取り組む姿が見られる等の成果を上げた。</p>
	渡邊 博之	福山市立松永中学校 教諭	<p>研究主任及び道徳教育推進教師として、生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを国語や道徳などの授業実践、校内研修の企画・運営などにより牽引しており、組織的な学校運営において中心的な役割を果たした。</p>

団体（学校教育）

年度	団体名	功績等
2022 令和4	福山市立藤江小学校 校長 池澤 香緒里	<p>児童にとって必要感のある学びの創造を目指し、児童の認知を培う要因に対し科学的なアセスメントを図り、ICT等を効果的に用いた授業づくりについて継続的に研究に取り組んだ。平成30年からは、ユネスコスクールの認定を受け、生活科・総合的な学習の時間における児童の課題意識を起点とした学習活動を柱に、地域理解に関わる学習や自己の生き方に関わる学習を行っている。</p> <p>令和4年度広島県連合小学校長会教育研究大会では、児童の姿を中心に据えて学び合う研修の具体として実践発表を行った。</p>
2021 令和3	福山市立鞆の浦学園 校長 宇根 一成	<p>令和2年度から福山市の「教科・学年の枠を超えた教育課程の編成・実施パイロット校」の指定を受け、「子ども主体の学び」づくりに取り組んできた。学校独自の教科「鞆学」では、地域課題の解決やSDGsの達成に向けたテーマに取り組み、鞆学プロボノメンバー（地域の専門家）による出前授業や校外活動を実施するとともに、「鞆学」を通して身に付けた課題発見・解決能力や情報活用能力などを教科の学習にも生かしている。</p>
2020 令和2	福山市立千年小学校 校長 岸本 千香子	<p>教科・学年の枠を超えた教育課程を編成し、児童が自分で「決める・選ぶ・考える」場を設定するなど、「子ども主体の学び」づくりを行っている。また、家庭学習の在り方を見直し、児童が自分に合ったやり方を選び、決めることができるよう改善を続けている。これまでの通知表による評価を見直し、自校作成のテストによる評価を行ったり、学習の過程が分かる個人のポートフォリオにまとめたりしている。</p>
	福山市立城東中学校 校長 羽原 靖明	<p>平成30年度から、生徒の新たな居場所として、「きらりルーム」を設置し、令和元年度からは、経済産業省の「未来の教室モデル校実証事業」の指定を受け、生徒一人一人の多様な学びを実現する場所となるように実践を行っている。企業が開発した「答えのない問いを協働的に解決する学習プログラム（探究学習プログラム）」を総合的な学習の時間に導入したり、EdTechやICT機器の活用を進めたりして、個に応じた学習に積極的に挑戦している。</p>